



継続的に優れた光学技術情報の入手のため

株式会社 GCE インステチュート 技術顧問

稲 秀樹 INA, Hideki

(当協会「逆問題手法の光計測のための Deep Learning 入門」講座講師)

昨年、2022 年は本当に色々なことがあったが、「光学関連」において私が一番、驚き、かつショックを受けたのは『OplusE』誌が今年の 11 月発行の号をもって休刊となったことである。

この『OplusE』誌は光エレクトロニクスと画像工学分野における技術情報誌として、故・松下要氏により 1979 年 12 月に新日本コミュニケーションズ社から創刊された。この年に「オートボーイ」、「ウォークマン」が発売され、繁華街ではインベーダーゲームの電子音がし、ダサイとかナウいと言っていた頃で、『ジャパン・アズ・ナンバーワン』が執筆された年でもあり、日本経済の黄金期とされていた時期である。

それから 43 年、『OplusE』誌では、各号に特集として最新情報をわかりやすく記載した記事や、鶴田匡夫氏、渋谷眞人氏、本宮佳典氏らによる多岐にわたる内容の連載コラムが掲載されてきた。

残念ながら時代の変化により読者のニーズも情報入手の手段も多様化するなか、『OplusE』誌はいつたん紙媒体としての役割を終え、新たな道を考え、展開していく、とのことである。

本誌も含めて、紙媒体の経済的な事情は厳しいことであろう。どの本も休刊・廃刊になっていくのであろうか、これから更に……。

とすると、今後の光学関連も含めて、新しい技術情報をどのような形態で得ていくことになるか？情報の入手方法は重要であるからこそ、それについて考えてみて、そのことを書いて記載してみよう、とこのコラムの執筆を中野さんから依頼された時に思った次第である。

現在における光学関連情報の入手ルートの一例としては、学会で発表した内容を Web サイトの関連するインターネットニュース等で概要が速報で報告され、それを読み、第一段階として、関連する背景技術等を Web サイトをインターネットで検索して調査する、といった所であろう。さらに情報入手したい場合には、第二段階として、関連するセミナー等への参加や、その分野の研究者等に聞きに行く、が考えられる。

『OplusE』誌は、第一段階と第二段階を繋ぐ役割を担っていたと思う。

それを、今後、どうなるか、を危惧するのであるが、『OplusE』誌の発行元であったアドコム・メディア社としては「Web、ウェブサイトが多様なコンテンツを提供し、新刊のお知らせやイベントカレンダー・ニュースなどの情報掲載や、メールニュースによる最新情報の発信、といった形態を今後、実施していく」としている。

大いに期待したところではあるが、すでに同じ内容を実施している Web ジャーナル等は存在する。

ここまで書いてきて思ったことは、

有用な情報入手にはお金を払うべき

ということである。

上述前記の情報入手の第一段階として Web サイトインターネットでの検索は、ほとんどが無償で観ることができるものであり、多くの情報が重複して存在している。さら更にその内容に対して保証は何もされていない、発信する側の書きたい放題である。

間違いだらけ、とは言えなくても、正しくはない内容の記載が多々見受けられる、と思うのは私だけではないであろう。

第一段階では情報を集めることに満足して、その内容を正しく理解せず、後でまとめて読もう、と自分に言い聞かせてそのままにしておく。そして、第二段階を経てから、各情報の内容を判断でき、やっと情報の取捨選択ができるようになる、といった現状であろうか。

この第一段階と第二段階を繋ぐ有用な Web サイトが欲しい、有償でも、と思うのだが如何であろうか？

これに関連する事例としてある無償のサイトが観ることが出来なくなり困ったことがあった。

この対象のものはある会社が製品の販売促進のために運営していたであろうもので、そのサイトに記載されている光学技術の内容が大変優れており、これまで多くの機会に参考にさせて頂いた。その会社主催のセミナー情報も色々な技術範囲をカバーされており、専門家以外の者にも理解し易い内容であった。

そのサイトのある関係の内容のものが全て昨年、閉鎖され、観ることが出来なくなったのである。こうなった理由は推測できるがここでは記載しないとするが、それを利用して頂いた私を含めた多くの方々が「なくなって」からその重要性を再認識したと思う。

これも無償提供が故のことであろう、発信者側の判断だけでユーザーは置いてきぼりにされてしまっても。

(そもそも、お金を払わない者はユーザーではないか)

Web サイト側のコンテンツ作りも有償での提供を意識した、優れた内容でとし、好循環として、多くの有償登録者を得ることで経済的に成り立たせる、と言った形態が“健全”であろう。

約 40 年以上前に「日本人は水と安全はタダだと思っている」と言われたが、今でもそう思っている方は多いと思うが、Web サイトインターネットを使って入手できる情報も同じように「タダ」が同然で、情報収集に「お金」を払うことに抵抗感がある方が多いのではないだろうか？

(色々なサイトで課金慣れしている若者は別であろうが)。

かくゆう私もその一人であり、検索して行って、ここから有償となるので新規登録して、となると「なんだよう..」と独り言をはいて、別の Web サイトを検索開始、がいつもの行動パターンであるが…。

どうすれば「健全な」形になるか、このことについて真摯に向き合い、考えて実施していかないと、日本の Web インターネサイトビジネスはいつまで経っても成熟したものにならないであろう。